



## 経済金融教育の詳細を紹介

# 自己を知り、社会貢献について考えることで、自身の人生と経済に向き合わせる

### 宮城県・私立常盤木学園高校

宮城県・私立常盤木学園高校は、2021年度から、3年次の「総合的な探究の時間」において、「経済金融教育」を導入しています。女性の労働環境に対する課題意識や、お金の問題を自分事と捉える授業の工夫などについて、VIEW<sub>next</sub> 高校版6月号でお伝えしました。

本記事では、授業の立案にかかわった先生方のお話から、授業の全体像や授業計画・教材の作成、成果と展望について、詳しくお伝えします。

「誌上で見学 学びの next」掲載のVIEW<sub>next</sub> 高校版は、[こちらをクリック](#)

#### 本記事の コンテンツ

- 1 **導入の背景と位置づけ** 自身の人生を考えるために必要な知識を学ぶことを目的に、「総合的な探究の時間」で実施
- 2 **授業づくり** ファイナンシャル・プランナーの協力を得て、単元計画と教材を作成
- 3 **成果と展望** 関連する他教科との連携を図り、学びの質を高める

学校改革委員  
チーフ

**植木規裕**

うえき・のりひろ

教職歴19年。同校に赴任して16年目。国語科。



進路指導部長

**関山純子**

せきやま・じゅんこ

教職歴25年。同校に赴任して23年目。国語科。



ビジネスコース長  
進路指導部  
(就職チーフ)

**名嘉眞梨菜**

なかま・りな

教職歴11年。同校に赴任して11年目。社会科、探究科。



#### 学校概要

◎常盤木学園高等女学校として開校。「自由と芸術」を創立の精神とする。2018年度、学校改革に着手。「自立・自活できる人間」「社会の問題を解決できる人間」の育成を目指す。部活動は、サッカー部が全国大会優勝の実績を誇るほか、器械体操部や新体操部、陸上部などが全国大会出場の実績がある。

**設立** 1928(昭和3)年 **形態** 全日制/普通科・音楽科/女子校(音楽科のみ共学)

**生徒数** 1学年約300人

**2021年度入試合格実績(現浪計)** 国公立大は、東北大、筑波大、東京藝術大などに11人が合格。私立大は、獨協大、中央大、桐朋学園大、東洋大、日本大、関西大などに延べ150人が合格。

**URL** <https://www.tokiwagi.ed.jp>

## 1 導入の背景と位置づけ

### 自身の人生を考えるために 必要な知識を学ぶことを目的に、 「総合的な探究の時間」で実施

#### 図1 「21世紀『わたし』デザイン」の授業を 通じて身につけることを目指す資質・能力

**A** 多様な環境の中でも周囲と円滑にコミュニケーションができ、他者利益を追求できる。

**B** 困難な状況に置かれても、心身を健やかに保ち、自身を客観的に顧みて、改善策を導き出すことができる。

**C** 経済的観念を持ち、金融知識を用いて、資産を管理・運用できる。

**D** 社会的な問題に率先してかわりを求め、自己決定の結果、多様な役割の中で解決する役目を果たすことができる。

**E** ジェンダー平等達成を目指し、その推進に貢献できる。

※学校資料を基に編集部で作成。

#### 図2 「21世紀『わたし』デザイン」の3年間の流れ

学年	テーマ	内容
1	セルフデザイン	他者とよい人間関係を構築し、よりよい自分を表現するためのスキルを学ぶ。
2	キャリアデザイン	世界や身の回りの問題について解決法を考える探究学習を通じて、社会に率先してかわり、貢献していく力を身につける。
3	ライフデザイン	金融経済教育やNLPの学習を通じて、困難な状況に置かれても自身の人生を築いていく力を身につける。

※学校資料を基に編集部で作成。

\*1 同校では、表情や歩き方、姿勢などの身体的なパフォーマンスや、プレゼンテーションなど、様々な方法で自分を表現し、自身の適性や興味・関心、他者から見た自分について知る自己理解に活用している。

宮城県・私立常盤木学園高校が「経済金融教育」を導入した背景には、女性を取り巻く労働環境に対する課題意識があった。学校改革委員チーフの植木規裕先生は、次のように説明する。

「日本の男女の賃金格差は依然として大きく、社会では女性が経済的困難に直面する場面があります。例えば、ひとり親家庭の約8割が母子家庭であり、就労している母子家庭のうち約4割が非正規雇用と、平均年収は父子家庭よりも低い状況です。そうした女性が直面している状況について認識を深めた上で、自己のあり方を考えさせる必要があると思います、経済金融教育を導入することにしました」

進路指導部長の関山純子先生は、生徒への思いをこう語る。

「経済金融教育は、これまで就職希望者のみを対象に行ってきました。経済的に厳しい家庭もある中で、生徒に現実的な問題を突きつけることにもなるからです。しかし、問題から目を背けず、現実を知り、問題を解決する力を身につけることこそが重要です。知識を得ておくことで、困った時に1人で抱え込まず、誰かに相談できるようになってほしいといった思いがありました」

そうした課題意識の下、「総合的な探究の時間」で実施している「21世紀『わたし』デザイン」の3年次に、経済金融教育を導入することにした。

「21世紀『わたし』デザイン」は、育成を目指す資質・能力を5つ掲げ(図1)、いかなる状況や環境下でも、主体的に自らの人生を築き、多様な生き方を実践できる女性の育成を目的としたプログラムだ(図2)。1年次は、「セルフデザイン」をテーマに、心理学者・佐藤綾子氏が提唱するメソッド「パフォーマンス学」(\*1)を通じて、自分の適性や他者から見た自分などから自己理解を深めるとともに、他者とよりよい人間関係を築くスキルを学ぶ。2年次は、「キャリアデザイン」をテーマに、SDGsなどの世界的課題について学び、各自でテーマを決めて探究学習に取り組む。進路観を深め、社会と自分とのかかわりを考えさせるのがねらいだ。

そのようにして、自分を知り、社会に目を向けた上で、3年次では、「ライフデザイン」をテーマに、自身の人生について考える。経済金融教育は、女性が自立して生きていく上で欠かせないものと位置づけ、『『お金』について考えよう』という単元として前期に行う。そして、後期には、自分の人生や生活を主体的にデザインしていくための、「心を整えること」について考え、実践する。特に、心理学や言語学を用いた心理療法であるNLP(神経言語プログラミング)を取り入れたコーチングを大きな柱としており、実習を通じてアンダーコントロールや自他の理解などを学ぶ。

「21世紀『わたし』デザイン」のプログラムの開発を担当した名嘉真梨菜先生は、次のように語る。

「コロナ禍で若者の自殺が増えていることから分かるように、予測不可能な社会において、若者の心の問題は非常に重要です。

社会に出る前に、困難に直面した時の対処法を身につけてほしいという思いで授業を行っています」

## 2 授業づくり

### ファイナンシャル・プランナーの協力を得て、 単元計画と教材を作成

『『お金』について考えよう』の授業は、名嘉眞先生を含む探究科の教師2人が担当し、全15時間で行われる。単元の展開は、まず、経済や金融について学ぶ意味を理解してから、女性の生涯賃金やジェンダーギャップ、進学費用、保険の知識、悪徳商法への対処、ライフイベントへの対応などについて学ぶ。そして最後に、100歳まで生きる前提で自分の理想とするライフプランを考え、それを実現させるために必要な費用の総額を計算する(図3)。

単元計画の作成に際しては、女性の自立支援に賛同してくれたファイナンシャル・プランナー(以下、FP)に監修を依頼。育成を目指す生徒像や各単元のねらい、授業時数などを説明した上で、授業の構成や内容についてアドバイスを受けた。

教材は、日本FP協会が発行するテキストを参考に、名嘉眞先生が作成。授業では、テーマに関連するデータを提示し、そこから読み取ったことや気づいたことを生徒同士で話し合わせたり、自分の場合はテーマに関する費用がいくらかかるのかを調べさせたりする。

「国や県などが調査したデータを教材に盛り込みました。特に、携帯電話の料金など、生徒が理解しやすいようなデータ、生徒が関心を持ちやすいような身近なものに関するデータを選びました」(名嘉眞先生)

学習評価は、授業中の態度と、毎時間のポートフォリオや単元の最後にまとめるライフプランなどの提出物で行う。図1で示した『21世紀[わたし]デザイン』の授業を通じて身につけるこ

図3 生徒が書いたライフデザイン(抜粋)

Figure 3 displays two hand-drawn life design worksheets. The top worksheet, titled '将来計画書' (Future Plan), is organized into three columns: '自分' (Self), '家族' (Family), and '社会' (Society). It includes handwritten notes and calculations for various life events and expenses. The bottom worksheet, titled 'ライフデザイン' (Life Design), also has three columns: '自分' (Self), '家族' (Family), and '社会' (Society). It includes handwritten notes and calculations for various life events and expenses. Both worksheets include a section for '上記のような人生を送るためにあなたがやるべきこと' (Things you should do to live the life like this), with handwritten notes and calculations for various life events and expenses.

100歳まで生きると仮定して理想のライフプランを考えた上で、ライフイベントに掛かる費用を、インターネットなどで調べて算出する。生徒が考えたライフプランを見ると、「人間関係を大切にすること。その時の感情で左右されるのではなく、先々を考えて生きること」などと書かれており、本授業が自身の人生において何を大切にすべきかを考える機会になっていることが分かる。(図は、前年度に就職希望者を対象にした講座で用いたワークシートであり、2021年度の経済金融教育では、様式を改訂する予定) ※学校資料をそのまま掲載。

とを目指す資質・能力」のうち、特にB～Dの力を段階的に評価できるように評価基準を定め、それを反映させたルーブリックを作成中だ。

本格導入初年度である今年度は、年度内でも授業内容や教材、ポートフォリオのフォーマットなどは、柔軟に変更していく。授業中の生徒の様子やポートフォリオに書かれた内容などを基に、生徒の状況に応じて授業内容を随時変更し、ポートフォリオに記載させる項目や問いかけ方も精査する考えだ。そして、全15時間が終わった段階で、生徒が作成したライフプランや授業の振り返りなどを監修のFPにも見せて意見をもらい、次年度以降の本授業に生かす予定だ。

### 3 成果と展望

## 関連する他教科との連携を図り、学びの質を高める

\*2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

毎回の授業の最後には、学習内容のまとめや振り返りを「Classi」(\*2)のポートフォリオに記入する(写真)。例えば、1・2時間目の授業では、「一部の項目の費用を書き出しただけでも相当な額になった。自分で生活していくというのは大変なことだと思った」「今まで自分のために、親がどれだけお金を使ってくれたのか、考えたことがなかった」といった気づきを書き込まれていた。

「データの読み取りでは、教師の解説は最小限にとどめ、主観や想像ではなく、データから分かったことを自分の言葉で書かせることを徹底しています。振り返りの内容も生徒間で共有できるようにし、多様な考えに触れ、より多くの気づきが生まれるようにしたいと考えています」(関山先生)

今後の課題は、他教科との連携だ。経済金融教育は、公民科や家庭科と関連する内容が多いが、同校では、公民科と家庭科を1年次に配置しているため、経済金融教育との間に1年間の空白が生じてしまう。それぞれの学習内容をどのように関連づけていくか、教務部や各教科と検討している。

また、学校を出て、実社会で学ぶ機会を増やすことも検討中だ。

「授業で学んだことを社会の問題と結びつけて考えるためには、生の現場を見て刺激を与え、意識を高めることが重要です。我々教師も閉じた世界にこもることなく、積極的に外部と連携し、我々が学校外で学んだことを生徒に還元していくことで、学びの質を高めていきたいと考えています」(植木先生)



写真 同校では「自分の言葉で書くこと」を重視し、ポートフォリオに学習内容のまとめや振り返りを記入する時間を、授業の最後に設けている。